



上海事務所

NCB 海外レポート

『中国社会』 デジタル化最新事情 ⑤

～ロックダウン後に導入されたデジタルコロナ対策 in 上海～

◇ はじめに

- ・ ここ上海市では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2022年3月末から約2ヶ月間にわたりロックダウンが行われました。6月以降は徐々に日常生活を取り戻しつつありますが、防疫対策はロックダウン前と比べて一層強化されています。今回は、ロックダウンを経て導入された上海市のデジタル技術を活用した最新のコロナ対策について紹介します。

◇ 「場所コード」で感染源を徹底追跡！

- ・ 上海市は、これまで「健康コード」や「行程コード」を各個人のスマートフォン（以下スマホ）に登録させることにより、個人の健康状態や行動履歴を把握していましたが、6月からより詳細な行動履歴を把握するための「場所コード」の運用を開始しました。
- ・ 「場所コード」は、上海市の公共交通機関やオフィスビルなど、あらゆる地点に設置されており、訪問者がそのQRコードをスマホでスキャン後、画面上に表示されるコードが緑色（正常）であれば入場することができます。
- ・ 従来の「行程コード」では、各個人が立ち入ったエリアが判別出来るのみでしたが、「場所コード」では、いつどの建物に入ったのかなど、より詳細なデータの収集が可能となっており、感染者が発生した際には、濃厚接触者を瞬時に特定し感染拡大を防止します。



- ・ オフィスビル入口に設置された「場所コード」の掲示板。入場者は同コードをスキャンして入館する。



- ・ 「場所コード」スキャン画面。QRコードが緑色であれば入場可能。



- ・ 上海市の地下鉄の駅構内。乗客は「場所コード」または「ワンコードPASS（後述）」を係員に提示して改札口を通過する。

◇ <ここに注目>上海メトロ（地下鉄）独自の取り組み

- ・ また、上海メトロでは、スマホ専用アプリ上でPCR検査の結果や健康状態を一つのQRコードで表示し、乗車券の役割も果たすオールインワン型の機能を持つ「ワンコードPASS」の運用を開始しました。
- ・ 乗客は、「ワンコードPASS」を利用することで、「場所コード」のスキャンや乗車券の購入が不要となるため、乗車時の負担軽減に繋がります。



- ・ スマホアプリ上で生成した「ワンコードPASS」の画面。枠が緑色で通行が可能。

◇ ゼロコロナを目指す中国

- ・ 中国政府は、感染源の早期の発見、報告、隔離、治療により感染拡大の防止を図る「ダイナミック・ゼロコロナ」政策を第一に掲げています。デジタル技術を活用したコロナ対策は、同政策を達成するうえでも欠かせない存在となっています。

2022年7月11日作成

西日本シティ銀行 上海駐在員事務所